



ブラインクーラー方式の冷凍装置の追加導入により、高品質の氷を効率よく製造することができるようになった

一般形

株式会社トップラン 品質向上をともしなう氷の増産体制の確立

夏季になると当社の既設の冷凍設備では、製氷のための低温を保つことが難しく、製造に時間がかかる上に品質が低下していた。夏季繁忙期の商品の質の向上と増産体制を確立するために、ブラインクーラー方式の冷凍装置を導入し、既設の冷凍装置と接続することで、効率よく高品質の商品を製造できるようになった。

〈 事業のきっかけ 〉 OPPORTUNITY

当社の既設の冷凍設備では、夏場になると製氷プールの温度が上昇し、氷が固まるまでに時間がかかり出来高が少ない上、溶けやすい商品になっていた。残業によってノルマの製造量をカバーしていたため、高品質の商品を効率よく製造することが課題だった。

また、引き合いの話があっても1台の機械から製氷できる量が決まっているため、新規顧客を増やすことができないことも課題だった。

そこで、ブラインクーラー方式の冷凍装置（ブラインクーラー／ブライン水循環ポンプ／冷却塔／冷却水循環ポンプ）を導入し、当社の既設の冷凍設備と接続することで追加冷却を行い、低温安定性の向上ならびに氷の品質の向上、増産に取り組んだ。

〈 事業の取り組み 〉 PROGRESS

ブラインクーラー方式の冷凍装置の追加導入前と導入後に、水温の比較、製氷開始から24時間後の氷の厚さの比較、製氷缶内にできた1日の氷の抜き取り目標に対する製造量の検証、電力費・生産性・コストの検証を行った。導入後は、製氷プールを安定的に低温に保つことができるようになったため、氷の厚さが増し、製氷缶1缶当たりの製造量が増え作業効率が向上した。

さらに、冷凍設備が1台増えたことで、1台をメンテナンスしている間にもう1台で製氷できるようになり、商品を安定供給できるようになった。

COMPANY MIND

熱血起業家

今後の取り組みについてお聞かせ下さい。

商品の精度向上と新商品の企画・開発に取り組みたい

ものづくり補助事業により繁忙期の商品の安定生産、供給を整えることができたので、今後は既存商品の更なる精度向上と新商品の企画、開発等に、創造性を持って次なるステージに挑み続けたい。

当面の課題は、商品ストックのための冷凍庫の拡張である。将来の業界の見通し、業界自体の地位向上等、取り組む事案は山積みだが、顧客の満足を第一に社業にあたっていきたい。

株式会社トップラン
代表取締役 東恩納 学



導入したブラインクーラー



氷を製造する製氷プール



溶けにくいと評判の商品「TOPICE」

〈 事業の成果 〉 ACHIEVEMENT

ブラインクーラー方式の冷凍装置を追加導入したことで、高品質の氷を増産することができるようになり、繁忙期の夏場でも商品を安定供給できるようになった。それにより、これまで安定供給に不安があったため行えていなかった新規取引先へのアプローチができるようになった。また小売り業者が当社の氷の評判を聞きつけ、取引したいという話もあり、顧客の増加にもつながった。

安定供給ができるようになったことで市場を拡大し、2018年4月からコンビニエンスストアとも取引をスタートさせることができたのは大きな成果である。夏でも溶けにくい当社の高品質商品は、コンビニエンスストアやその顧客からも喜んでもらっている。

COMPANY OVERVIEW

代表者名	代表取締役 東恩納 学
設立年	平成6年
所在地	〒904-2143 沖縄県沖縄市知花4-32-3
TEL	098-934-2793
FAX	098-934-2792
ホームページ	http://www.topice.co.jp/index.html
資本金	2,220万円
従業員数	21人
業種	製氷および卸販売業務

